

未来^眼とうほく 第3回

グローバル社会では広域的視点が大切

日本人初の国連職員となり、事務次長という要職を18年間務められ、激動の国際情勢の中で世界平和と安全の維持に尽力されてきた明石康氏。その明石氏に、国際社会における現在の日本をどのように見ておられるか、今後の日本、そして東北はどうあるべきかをうかがった。

市民社会が未熟な日本

●明石 私は町田さんのお父さんに、旧制秋田中学で修身を習ったんです。非常に立派な先生で、戦争中の軍国主義の雰囲気に流されずに、哲学的な講義をしてくださいました。私は生意気な学生だったので、本当にご迷惑をおかけしたんですが。

●町田 いえいえ、光栄な話です。

●明石 戦争中は、人間の命は鴻毛のように軽いものと教えられましたが、戦後になって、人の命は地球より重いと、180度変化しました。

昨日も実は、防衛省に招かれて、防衛大学の将来について話をしてきたんです。日本が、自衛隊を今のよう中途半端な状態にしておくことは非常に問題です。国連の平和維持活動でも、各国の軍人が命を賭して、一生懸命協力しているのに、戦後の日本では、どうしてもとらなくてはいけなリスクさえも避けてしまうような雰囲気が残っています。戦前・戦中のような日本になってはいけませんが、かといって、国際社会の中でとらなくてはいけなリスクまで避けるような国、という印象ができたのは非常に残念だし、これからのかじ取りが大変難しいと思います。

また、一部マスコミのセンセーショナルリズム、あるいはポピュリズムといいますか、これもまた困ったものです。健全な市民社会ができて、良識を持った人が多く出てくればいいんですが。常識人というのは、どこにでもいそうで、非常にまれにしかないのではないかと思います。

●町田 尖閣諸島の問題にしる、北方領土の問題にしる、日本の外交そのものが問われている、そういう時代ですね。

私は、国際関係、外交というのは、パワーポリティクスといいますか、ある程度、力が背後にあって、全体の調和を図るといったようなものではないだろうかと思っています。国連での豊富なご経験とご苦勞を重ねられた大先輩に、国際社会における日本というものをぜひ伺いたいです。

●明石 政治の未熟さというのは国民にとって非常に不幸なことです。そういう政権を選出したのは国民ですからね。いい意味での市民社会が育っていないのが日本の問題ではないかと思います。

民主主義の難しさ

●町田 「民主主義とは最悪の制度である。しかしながら、他のすべての政治制度を除けばの話である」と言ったチャーチルではないですが、民主主義というのは制度としてもどかしいところがありますね。おそらく哲人政治が一番いいんだらうと思いますが、しかし、民主主義というのは人類にとって帰らざる河ではないかと思えます。その中で、どのように市民が知恵を出し、力を出していくのかということが大切です。その仕掛け・仕組みをどうしていったらよいのでしょうか。

●明石 難しいですね。民主主義ほど難しい政治形態はないと思います。

アメリカは典型的な民主主義社会と言われますが、フィラデルフィアでの憲法制定会議の記録を読みますと、アメリカ建国の指導者であるフランクリンやハミルトンといった人たちは、民衆の政治というものに非常に疑問を持っていたんですね。ですから、彼らが考えた民主政治とは代議制民主政治で、スイスのような直接民主政治ではないわけです。皆さん意外に思うかもしれませんが、実はアメリカの大統領選挙は間接選挙なのです。11月のいわゆる大統領選挙では、大統領を指名するための代議員を州ごとに選出し、代議員が1月に改めて大統領の指名選挙を行うという仕組みです。そういう形で、生の民意というものをある程度フィルターにかけることをしないと民主主義はうまくいかないと、当時の指導者たちは考えていたんですね。ある意味では、情緒性に流れがちな民意というものに強い不信感を持っていたのがわかります。

●町田 本当にいいお話ですね。ですから、われわれが選ぶ国会議員というのも国民を代表するのであって、単なる代理人ではないということですね。

また、今のように何かにつけ、すぐアンケートをとって政権の人気度を測るといったやり方はいかがかなと思っています。

●明石 輿論調査と呼んでいるものが頻繁に行われていますが、私はあれは世論調査だと思えます。「輿論」と「世論」というのは分けて考えるべきじゃないかと思えます。その時々コンピューターを使って無作為に抽出した人に考えを聞くというのは、私は世論調査だと思っています。ある程度教育を受け、新聞・雑誌を読み、よく考えている人を対象に調査するのが「輿論」というもので、それが政治や社会に反映してくるのはいいことです。そういう「輿論」と、ふわふ

わとあぶくのように川の流りに浮かんでいる「世論」がごっちゃになってしまっています。良識を持った人たちが自分の考えを政治に反映させるという形になっていくのは、民主主義国家といえどもなかなか難しいことです。

国家資本主義的な中国

●町田 今回の尖閣諸島の問題で、日本の方は外交のお粗末さを見せてしまいましたが、中国にとっても世界の中で大変評判を落としたのではないかと思います。

●明石 中国は、2012年に今の胡錦濤政権から新しい政権に権力が移行するというので、国内的にさまざまな問題があり、それが今回の尖閣の問題にも反映していると考えられます。ご指摘のように、中国に対する国際的な評判にとって決していいものではなかったと思えますね。国際社会の中で自分の役割とか責任にまだ目覚めていないところがあります。

●町田 ベルリンの壁の崩壊から2年後の1991年にはあのソ連邦が消滅するという、すさまじいことが起こったわけです。共産主義の盟主が減んだ後で、中国の一方独裁・共産主義体制はいつまで持つんだろうかと思いましたが、見事に、むしろ国家資本主義とでも



明石 康 (あかし・やすし)

1931年、秋田県生まれ。東京大学教養学部卒業。バージニア大学大学院修了。57年日本人初の国連事務局職員となる。国連広報担当事務次長、国連軍縮担当事務次長、カンボジアや旧ユーゴスラビア担当の国連事務総長特別代表などを歴任。97年末に国連退官。現在、(財)国際文化会館理事長など。



町田 睿 (まちだ・さとる)

1938年、秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、株式会社富士銀行入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、1994年株式会社荘内銀行取締役副頭取、95年取締役頭取、2008年取締役会議長。09年10月1日より、フィデア・ホールディングス取締役会議長・北都銀行取締役会議長。

言うべき非常に効率のいい経済発展を遂げています。
●明石 おっしゃるとおりです。国家資本主義、国家市場主義的なやり方をとっていますよね。これは、残存している共産主義国家、中国、ベトナムなんかがそういう政策をとっています。そこで、シンガポールのような国をどう見るか。民主主義国家でもないが、共産主義国家でもない。しかし、国家が主導する、一種の国家資本主義ですよ。非常に優れた、知性をもった指導者によるパターンリスティック（父権主義的）な資本主義といえますか、采配の取り方が見事です。プラトンの哲人政治をしのばせるところがあります。優れた指導者なき後のシンガポールがどうなるかと言えば、やはりかなり違ってくるのだと思います。

日本の人材育成

●町田 日本は明治維新以降、官僚を育てる仕組みというのはそれなりに整備されてきたと思います。ところが今、グローバル社会になり、経済活動やあらゆるものが地球レベルになっている時代には、日本を代表する政治家を育てる教育システムが必要ではないかと思っています。明石先生に、そういうステーツマンを育ててほしいという期待があります。

●明石 群馬県では、国際舞台で活躍できる、高い志と行動力に富んだ若者を育てることを目的に、毎年優秀な高校生10名を集めて「明石塾」というものを作っています。8カ月間ほど週末を利用して特訓し、優秀な青年が育っている例です。また、私が理事長を務める国際文化会館で「新渡戸国際塾」を開塾しています。この塾は国際人としての素養を高めることに主眼が置かれており、厳しい選考基準をクリアした塾生（各界



「明石塾」の講義の様子

の若手から中堅幹部層）十数名が、さまざまな識者の講演を聞き、質疑応答を行い、また、塾生同志がフリー・ディベートを行っています。他にも福岡県で、経団連やいくつかの県が後援する「日本の次世代リーダー養成塾」で講師をしています。全国から優秀な高校生を集め、2週間缶詰めにして徹底的に討論します。打てば響くようないい若者たちがそろっていて、活発な意見交換が行われています。

若者たちは二分化していて、大半の人たちは内向きで、自分の小さな生活・小さな幸福感の中で生きています。その一方で、1割か2割の若者たちはやる気があり、現状に決して満足せずに、国外の問題や日本の長期的な行方なども考えながら一生懸命に何かを模索しているという感じがします。そういう人たちを見ると、われわれも日本の将来に希望を失う必要もないのではないかと思います。

●町田 明石先生は、秋田の国際教養大学の客員教授もなさっていますね。秋田出身者だけではなく、相当なレベルの学生があそこに集まり、東北の教育拠点となっていくのかなと思っています。

●明石 日本の教育は、相対的に見てそれほど悪いものではないと思います。特に初等・中等教育に関しては、いい線をいっていると考えています。残念ながら、高等教育・大学教育が、国際的に見た場合にいろんな意味で遜色があると思います。

文科省が主導して平成21年度から「国際化拠点整備事業（グローバル30）」を推進しており、私も賛同者の1人です。日本への留学生を30万人に増やしたいということで、東大など13の大学が、英語で学位をとれるコースを発足させることにしました。でも事業仕分けにあい、予算を減らされるらしいのですが。この事業は、日本の高等教育を強化する意味で、大変良いことなのです。日本の大学は、外国人教師の比率、留学生の比率の低いことでは、もう目を覆うほどです。そういうことに危機感を感じて大学が立ち上がったと思ったら事業仕分けをかけるというのは、見識のない話です。日本はグローバル社会の中でしか生きていけないんだという考え方にに基づき、必要な人材を育てることが、長期的な政策として必要です。

●町田 新渡戸稲造の「武士道」は、そもそも欧米人向けに「日本人とは」と英語で主張したのですが、しかしその精神が、今の日本人に最も必要だと思います。誇りを失いかけている日本人に品格のある自負を与え、GDPという経済的な数量ではない、われわれ日

本人は世界から尊敬されるような国民であるんだと示していくことが、どうも今の政治家にはない。そういう国家観というものが、今なさすぎるような気がしてなんとも無念です。

広域の視点が問題を解決する

●町田 東京一極集中に偏りすぎてしまったことが、日本の力を弱めているのではないのでしょうか。南北に長い日本列島ですから、それぞれ地域ごとにもう少し主体性を持つべきです。多様な力、多様な思想、それらがある意味ではいいコンビネーションを作るのではないかという思いがあります。

●明石 道州制というのはどのようにお考えですか。

●町田 一つのステップであると思います。われわれ民間から言いますと、行政的に境界を敷こうが敷くまいが、経済は行政を越えて広がっていくものです。

●明石 秋田・山形をはじめ、東北は日本のほかの地域には知られていない文化や伝統を持っています。また、新しい教育というものをやろうとしてそれぞれが実験を繰り返しており、例えば東北公益文科大学は、公益とはどういうものであるかと真面目に考える関係者の方々が頑張っておられます。これらがもっと評価されるといいと思います。

町田さんがおっしゃっている広域経済・広域社会というのは、地域の抱えている問題の解決にも非常に役立つのではないかと思います。

それぞれの県は異なる文化圏であるというのではなく、いろいろなつながりがあり、お互いに刺激しあいながら伸びてきた面もあります。そういう東北の多様性、豊かさを皆で享受していくべきです。境界線をはっきり引くことも大事ですが、いまや人の動き、金の動き、情報の動き、すべてが境界をやすやすと越えていく時代です。自分の個性を意識してそれに誇りを持つことは大事ですが、と同時に、自分の隣近所をよく見て隣近所と一緒にやれることは率先してやるようにしないと。日本にとって、周りの国と事を構えるばかりで、守りの姿勢でいては、とてもこの21世紀はやっていけないと思います。

●町田 おっしゃるとおりです。

秋田県の将来にとって一番心配な指標として、人口減少率全国一というのがあります。人口減少社会では、知的移民を真面目に考えるべきではないかと思っています。中国からもロシアからも優秀な人材をどんどん引き入



国連時代の明石氏(左)。カンボジア暫定統治機構(UNTAC)で最高責任者を務めた。右はシアヌーク殿下。

れていくべきです。

●明石 私は人口問題協議会の会長を務めていますが、その研究会でまとめた提言の一つがまさに「日本型移民政策の導入」です。少子高齢化の問題に対する一つの答えを出そうと、専門家を交えて議論しまとめたものです。危険な仕事をさせるための移民ではなく、日本経済がこれから必要とするであろうインドからのIT労働者や、フィリピン、インドネシアからの介護関係専門家などの人材を、長期的な政策に基づいて受け入れ、さらに日本語や日本文化について教えることも必要です。良質な外国人留学生の受け入れは、日本の大学にもよい刺激を与えるでしょう。

●町田 すばらしいですね。私も同感です。

お互いのよさから学ぶ

●町田 秋田県の県民性が問題になっていまして、どうも秋田県民は意気地なしだとか。県民性というものあまり後ろ向きにとらえない方がいいと思いますが。

●明石 そうですね。私は県民性や国民性は固定的には存在しないと思っています。ある期間、確かに特徴があり、残りますが、長い年月のうちに変わるものです。変わることを嘆くのではなく、むしろいい方向に変えるように努力するべきです。教育はそのための手段で、皆で議論してみることが必要ではないかと思っています。

●町田 本日はありがとうございました。